

# 厚生文教常任委員会会議録

- 1 日 時 令和元年10月21日(月)  
10時00分開会 10時44分閉会
- 2 会議場所 役場3階第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：高橋政悦 副委員長：中河つる子  
委員：川上 均・鈴木孝寿・西山輝和・中島里司  
議長：加来良明
- 4 事務局 事務局長：山本 司、次長：宇都宮学
- 5 説明員 なし
- 6 議 件  
  - (1) 所管事務調査について  
・高等学校振興に対する支援策について(道内視察事前調査)
  - (2) その他
- 7 会議録 別紙のとおり

(1) 所管事務調査について

・高等学校振興に対する支援策について (道内視察事前調査)

委員長 (高橋政悦) : 皆さん、おはようございます。只今から厚生文教常任委員会を開催したいと思う。

本日の議件は、所管事務調査の中で高等学校振興に対する支援策ということで、前回から継続調査となっている件について、本日、視察を前に、どのような視察にするかということを検討したいと思っている。よろしく願います。

それでは、早速議件に入りたいと思う。お手元の資料のほう、清水高校振興会が作られた振興会の総会資料、それと清水高校のPR資料等々に加えて、視察予定である北海道科学大学高校と札幌新陽高校の学校紹介的なものを、ネットで引っ張ったものを事務局で用意をしていただいた。

これらを踏まえて、12月の定例会までに委員会として調査を完結していきたいということで、日程のほうは11月5・6日に、札幌の私立高校2校に視察に行かせていただくということになっている。その前段として、各委員の方々においては、訪問時の具体的な質問事項等と、当然のように委員会報告書の結論を視野に入れたまとめ方について、本日は協議したいと思う。

鈴木委員のほうから伺う予定の2校について、大まかな説明を受けたいと思う。

鈴木委員 : 初日の午後から札幌新陽高校、2日目の午前中が北海道科学大学高校に行くことになると思う。いろいろな公立高校の校長先生、もしくは清水高校の前校長からアドバイスをいただき、結果として、公立高校のやっていることは、どこも変わらないというお話から、学校の生き残りで非常に一生懸命やっているこの2校をピックアップしたらどうかと、委員長ともお話をさせていただきながら、たどり着いたという形である。札幌新陽高校の案内が出ていると思うが、荒井優さんという校長先生であるが、ここに出ているとおりの経歴で、今、これにプラス九州の学校の理事長をやることに今年からなったものであるから、日本全国飛び回っていて、この日はこの荒井校長先生とは会えない。そのかわりに榎田副校長に対応していただけると。個人的にお話をしたことがあるが、元公立高校の先生とは思えないぐらい、現実を見ながらしっかり運営をしていらっしゃる。これが最終的に清水高校に合うのかどうか別としても、改めて生き残りをかけた学校同士の戦いというところの一部を見せていただければ、すごくいいのではないかと。それとともに、どうしてそれで人を集めることができるのかというところを聞かれるのが、一番いいというような気はしている。この取り組みは非常に先鋭的な取り組みをしていて、例えば校長室がIT企業のようになっていたりとか、おおよそ学校とは思えないような感覚で今はやられているところであるので、そういうことである。一方、北海道科学大学高校というのは、この校長先生とは、個人的におつき合いがある先生であるが、札幌市内でも公立高校、さらにはほかの私立高校と戦っていく、もしくは人を集めていくという上では、非常にいろいろなことを考えながらやっている。例えば、よく言われたのが、今、私の仕事は本当に優秀な先生をヘッドハンティングしてくる、これが一つの仕事になっているというぐらい、子どもに対して本当に最高の学校を提供するための準備を今しているというところで、非常にこの辺がおもしろいかなと。両校とも公立高校の校長先生をやっていた方であるから、非常に公立高校のやり方も、道教委のやり方も知っている、そんな中では、非常に参考になる部分は確かに出てくるなかと。公立高校の道教委がこれからやっていくことも、この方々はわかっているから、そういう中で、改めて今、清水高校を考えたときに、こういう先生方、こういう経営者の方からの話を聞くというのは非常に貴重かなと思ひ、質問のほうも思い切った質問されても答えてはくれると思う。ただ、しっかりした質問は考えていただきたいと思っている。

委員長 : 大まかな情報としては、今わかっている限りでは、鈴木委員が説明されたとおりで。それを踏まえて、当然、高等学校振興に対する支援策ということなので、その身になるような質問、あるいは事例を見てこなければならぬ。特色のある高校2校に伺うわけであるから、各委員の皆様が、このようなジャンルで質問していきたい等々、今この場でこうするという話ではないとは思いますが、ポイントだけは今つかまえておくべきかなということで、今回、委員会を開催したわけである。それぞれそのポイントについて、各委員の皆様から意見を伺いたいと思う。実際、大项目的なものを上げていただければいいが、清水高校で今課題となっている点というのは、道教委が間口を

維持していただいたが、定員も今までのままということであるが生徒が集まらないということ。札幌新陽高校、あるいは北海道科学技術大学高校は私立であるから、人がいなかったら経営が成り立たないということで、何かその部分でヒントになることがないかと、当然、公立と私立の差はあると思うが、何かヒントを見つけていただきたいというような形で、アドミッションポリシー、入学者受け入れの方針等々、この辺を深く聞いていくのも一つだと思ひ、そんな感じで大項目を上げていただければと思う。

その大項目をもとに行くまでの間、各委員の皆様、こんなこと、あんなこと、具体的な事例を考えてきていただいて、その質問をしていただければいいかなと思うが。

西山委員：やはり人集めをいかに上手にやっているかという、何をポイントに売り物にして、メインとして、学校で人材集めをしているのか、そういうところはやはり勉強したいと思う。

委員長：ここが一番の大きな問題だと思うが、大項目の1つとして、要するに入学者の受け入れ方針なり、施策なりを一つの大きな課題として上げておくということ、それはよろしいか。

(はいの声あり)

委員長：その点と、今日出された大きな課題というのは、事務局のほうでメールか何かで連絡してもらってもいい。今日これを決めてもらえば、細かな質問については、委員の皆さんがそれぞれ考えていただきたいと思うが。条件によっては事務局経由で項目を連絡するということもありということ。ほかに何かないか。

川上委員：今回2校については、今初めて内容をこれから見させてもらう中で、ちょっとまた勉強をさせてもらいたいと思うが、通常、高校というのを単純に考えれば、大学に行くための一つのワンステップであって、通常、親や子どもたちにとっては、とにかく進学率のいいところを選択肢として選ぶというのが、普通だと思ひ。そういった中で、この2つの高校がそれだけにとらわれないのか、その辺をどういうふうに考えているのかというのを、いわゆるシンプルだけれども、単純にその辺のことをもうちょっと自分自身が勉強したいと思ひ、聞いてみたいというところだと思ひ。

委員長：川上委員から出た意見は大項目にするというよりは、どちらかという、大項目の中のターゲットをばっちり絞った質問の内容だと思ひ。大まかな中で、今の川上委員の意見でいくと、この後、2020年に大学入試が変わり、それに向けての対策というのを大項目にすれば、今の質問が生きてくるというような感じがする。大きく考えれば、高校の後の進路についての教育方針であったり、いろいろあると思うのだが、現状、清水高校の場合、進学校というよりは、どちらかという、即戦力的な教育のほうに重きを置いているということ。一つとして、ここの2校に聞くのであれば、2020年の大学入試に向けての教育改革になるのか、もしくは方針の変更になるのか、その辺を大項目としておいて、今の川上委員の質問、ほかの委員の質問というのをぶつけていくのも手だと思ひ。2020年に向けてのというか、2020年以降の入試対策含めて、それらの方針を聞きたいというような大項目の設け方でよろしいか。

(はいという声あり)

委員長：では、そのほか、委員の皆様、何かあるか。  
休憩する。

【休憩 10 : 16】

【再開 10 : 19】

委員長：再開する。そのほか何かあるか。

鈴木委員：取り組みで聞いているのは、やはり入学者の数は少なからず増えているところのようである。例えば、両校とも進学率が特別いいという高校ではないが、その中でどうやって上げていっているのか。人集めの経過とともに、カリキュラムを聞いてみるのも一つの手かもしれない。学校もこういうことができるといういろいろ言うが、それができるようにするために毎日が必死で先生方がどれだけ大変なのか、もしくは、学校としてモチベーションの持ち方というか、そういうところも聞きたいと私は思っている。そこが項目になるかどうかはちょっと難しいと思ひ。

委員長：今の意見も含めて、先ほど2020年の大学入試が云々って言ったが、そこに限定するのもおかしな話で、要するに今自分たちの学校のモチベーション上げるために、いろいろ改革している。要するに教育改革あるいは学校の運営改革等々を1つの項目として質問していくよりは、分けたほうがいいか。学校の運営方針と教育改革については分けたほうがいいかもしれない。要するに教育改革について、これは大学入試云々ではなく、普通の教育改革のこと。例えば道教委なりの指示がこうだ

が、こういうふうにしていくのがいいのではないかという思いを聞いたら、そういう方法もあるのかということで、その辺を調査するということもありかなと思う。運営については、これは公立高校だから全くまねをするという話にはならないが、こういう工夫があったらという情報を集めておいて、少しでも運用できることがあれば、そこもためになるのかなというふうにする。具体的には、ICTに関しては、清水高校も当然のように、振興会からの支援で、タブレットを導入しているが、その運用方法として、高校が活用できているのかどうか。それについては調査していないのでわからないが、視察先の2校のうちどちらともだと思いが、私立高校なので、パンフレットを見ると、入学したら全員に1台ずつ当たるみたいな感じで書かれている。その運用方法がしっかりしたものがあれば、清水高校について、この後、目指すところがそこで合えば、そのぐらいのハードを準備するみたいな支援の仕方もあるだろうし、それが一番現実的な話になるかなと思う。4つ目の大項目として、ICTについて詳しく聞いていければと思うがいかがか。これも入れておいて大丈夫か。

(はいという声あり)

委員長：そのほか、委員の皆さんから、この分野についてというのはないか。

中河委員：教育の運営についての視察に私たちが行って、振興会にどれだけ聞いてもらえるのか、生かしてもらえるのかというのがよくわからないところもあるが、北海道科学大学高校のメッセージの中の「生徒のミライのために」と書いてあるが、生徒が集まるため、生徒に魅力的な学校と思われるためにということか。魅力ある学校づくりのために、私たちが学校運営について振興会に要望するものなのか、生徒を中心に置くというのとはできないのか。

委員長：我々が見てきて結果報告するのに当たって、こうしてほしいなどは、当然にそのような権利は何もない。ただ、高校振興会において高校を振興していくうえで、何らかのプラスになればというレベルである。要するに、委員会としては、こうなっている高校があるという紹介であったり、こうするのが今の現状ではいいと思うという報告である。それを聞くか聞かないかというのは振興会の考えである。だからそこに強制力は何もない。ただ、この委員会でいいと思ったことを伝えられるかどうかは報告書によるのだと思う。だから、報告書の内容如何である。見てきたというだけの報告書では説得力も何もないし、きちんとした報告書を出せば、それなりの結果はつなげてくると思う。それについては、こんなことをやってもどうせ聞いてもらえないと思ってやっていたのでは、初めからやらないほうがいいし、行く必要もない。ただ、少しでもいい例があるなら、それを見てきて、感じて、それを報告書としてまとめるというのが、この委員会に出された課題というか、要するに議員としての活動の一環でもある。行ってきたが無駄に終わった、無駄に終わるでしょうと思って行くのであれば行かないほうがいい。そこを無駄にしないように行くのであるのだから、引いた考え方じゃなくて、何かを探ってこようというような気持ちで行かなければ、税金で行くことから、そんな簡単な話ではないと思う。

鈴木委員：調査項目の一つの中に入れたいと思うのは、例えば、札幌新陽高校と北海道科学大学高校のホームページを見てみると、清水高校のものとは差は歴然としている。これはまだ資料はないが、清水高校の学校紹介のチラシを見て、一生懸命頑張っているとは思っている。こういう目に見えるものについては大事なので、もうちょっと聞いてみたいと思う。多分今すぐできることは、もしかしたら、ホームページやこういう学校紹介を思い切って、学校と相談しながらも町と一体となってやれるような仕組みづくりもいいのかと思う。それは見た上でないと言えないが、多分そういう形になるのだろうと思う。我々ができると思ったら、その導入ぐらいは必ずしなければならぬぐらいの気持ちでやると。そんな大した金額がかかるのではないので。基本的に子どもたちもそうであるし、親もそうであるが、まず目に見えるものから入っていくのは事実であるから。広告費にどれくらい使っているのかは教えてはくれないにしても、こういうチラシも含めて、こういうところからヒントになるという気がしている。どういうものを行っているのかというのを聞くのも一つだし、そういうところも調査したいと思う。

委員長：ただいま、鈴木委員のほうから、いわゆる大きくくりでいうと、IT、インフォメーションテクノロジーの分野に関してということで、その効果というのは当然この2校の方たちは、わかっていることだと思うから、その効果、または費用対効果というのをお互いあわせて調査するというのが、大項目として必要などころなのかと思うが、いかがか。よろしいか。

(はいという声あり)

委員長：そのほか、委員の皆様から何かあるか。

あと、最後に聞くとしたら、この2校は私立であって、当然改革でどんどんやっていると聞いているので、その都度、何か障害があったと思う。その障害についてどんなものがあったのか、それを

どう乗り越えたのかというのも、きっと公立高校に比べて先に行っていると思うので、これから訪れるであろう公立高校の障害もその中にあるのかもしれない。そういうことについても質問するのはいいのではないかなと思う。大体そのくらいの項目で、あとは枝葉で委員の皆様から、こういう分野でというところを質問していただければ、いいと思う。

1日目の11月5日が札幌新陽高校、2日目の11月6日が北海道科学大学高校ということで、その2校へ行くこととする。前の委員会が出た道教委については、難しいとのことであった。質問等々については、2校別々の学校であるので、できるだけ委員の皆様は個人ごとに情報を収集していただいて、質問事項等を整理しておいていただきたいというふうに思う。

そして、まとめについては、あくまでも振興策ということで、これは教育委員会宛てであったり、もしくは振興会にも伝わって、要するに教育委員会と振興会があわさってうまくいくようなヒントというか、情報を紹介していければと思う。委員会としてこういう方向でいくのが望ましいと思うことをまとめていかなければならないが、そのまとめについては、各委員の皆様は報告書を提出していただいて、集まった後に、委員会報告書としてのまとめを行うことになる。視察後に、その日程等は決定したいと思うが、事務局と委員長でその日程を決定してよろしいか。

(はいという声あり)

委員長：そのような日程で行いたいと思う。

所管事務調査について、ほかに何か委員の皆様からあるか。よろしいか。

(はいという声あり)

委員長：議件の1番については以上とする。

## (2) その他

委員長：(2)番、その他であるが、こちらからは特にないが、委員の皆様からその他として何かあるか。

中河委員：その他に入るかどうかわからないが、前に、清水高校の給食というか、お昼が大変だという問題が出ていた。それで、御影のパン屋さんに聞いたら、お昼用につくってもいいと。そういう話を聞いてきたが、この場で言っているかどうかよくわからないが、お聞きする。

委員長：今回の所管事務調査とは、ちょっと違うが、それら情報として、教育委員会にその情報を提供してということになるのか、

山本局長：そういう情報を得たということであれば、高校振興会の事務局である教育委員会学校教育課のほうに、お伝えいただければというふうに思う。私のほうが伝えておいてもいいが。

委員長：今の話題は、そういう情報もあるということで、事務局のほうから教育委員会のほうに伝えていただくということではよろしいか。

そのほか、何かあるか。

(なしという声あり)

委員長：ないようであれば、事務局あるか。

山本局長：行政視察の日程を確認させていただく。(視察調査の日程について説明)

委員長：只今、事務局から説明をしていただいた。ご理解いただいたと思うが、質問等あれば受ける。よろしいか。

(はいの声あり)

委員長：休憩する。

【休憩 10 : 43】

【再開 10 : 44】

委員長：再開する。そのほかないようなので、この辺で閉じさせていただいてよろしいか。

(はいという声あり)

委員長：皆様のご協力のもとスムーズに会議終了することができた。ありがとうございます。これで厚生文教常任委員会を終了したいと思う。

【閉会 10 : 44】